



# 大槌

広報おおつち NO.570

漁業復興へ二つの拠点  
白澤みさきさんインタビュー  
「ひょうたん島日記」



11

2013. 11. 5



大槌湾に停泊する「新青丸」＝10月4日



「牡蠣ノ星」プロジェクトのポスター



立地協定書に調印したヒューマンウェブの吉田琇則社長（右）と碓川豊大槌町長（左）＝10月9日、大槌町役場

を漁業の振興と観光の発展に資する学術研究船として、大槌町の観光資源の活用を図る。新青丸は全長

62メートル幅

13.2ノットで建

12メートル

新青丸は、独立行政法人海洋研究開発機構が、大槌町の観光資源の活用を図る。新青丸は、大槌町の観光資源の活用を図る。新青丸は、大槌町の観光資源の活用を図る。

### 陸の海の復興へ研究船「新青丸」

新おおつち漁協組合長代行の 部力さんは「生産者として、いいカキを提供し、信用を築くよう努力したい。指導いただき、消費者が望むカキを作りたい」と話しています。碓川町長は立地協定書を調印した後、「大槌牡蠣ノ星」が、ばたき、大槌の水産を引する素晴らしい事業に育ってほしいと抱負を語っています。



船体には母港の「大槌」の名が記されています

作で海の子を撮影し、地質調査のためのサンプルを取る無人探査機を載せ、東北マリンサイエンス拠点形成事業は、東北大が代表機関、東京大、大気海洋研究所と海洋研究開発機構が代表機関です。新青丸の母港には、その東京大、大気海洋研究所がある大槌町に決まりました。大槌漁港は復旧工事のために接岸できず、岩手県が今後、接岸できるように整備します。

お披露目式では、海洋研究開発機構の平理事長が「変化した生を、理解して、漁業復興のお役にたちたい。未長く、されることを願う」とあいさつし、大槌町の碓川豊町長は「国際海洋研究都市を、き、交流人口を大させたい」と期待を込めました。

の産地受入れを促進する。ヒューマンウェブは、大槌町の観光資源の活用を図る。ヒューマンウェブは、大槌町の観光資源の活用を図る。

ヒューマンウェブは、大槌町の観光資源の活用を図る。

10月9日、町と

牡蠣ノ

23

に、大槌町の観光資源の活用を図る。ヒューマンウェブは、大槌町の観光資源の活用を図る。

ヒューマンウェブの大槌進出には、ノロウ

1億円を見込んでいます。牡蠣ノ星プロジェクトは、3人は、全員、地元から雇用する

4時間浸し、浄化、安全性

漁業復興へ向けて二つの拠点が町にできることになり、大槌町の観光資源の活用を図る。ヒューマンウェブは、大槌町の観光資源の活用を図る。

カキ料理店